

HOSEI

Communication Magazine

11.12
2020

2019年度の研究・教育活動に対する 受賞・表彰者の紹介

※本特集は、2020年10月号、11・12月号、2021年1・2月号の3号にわたって掲載するシリーズ企画です。

本学では2015年度から「研究・教育活動に対する受賞・表彰祝賀会」として、学会などで受賞し、表彰された教員の方々を祝賀する場を設けています。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、祝賀の場を見合わせておりますが、ここでは、2019年度に受賞・表彰された教員とその研究内容をご紹介します。

※掲載は設置学部・学科順です。



※各記事の詳細は、
ブランディングサイト
「法政フロネシス」に掲載しています。

<http://phronesis.hosei.ac.jp/feature/award>

研究力の発信と学生の教育



副学長 学術支援本部担当常務理事

尾川浩一 教授

Ogawa Koichi

大学の重要なミッションは研究と教育にあります。本学の多くの研究者が学会などのさまざまな学術団体から表彰を受けました。これは、それぞれの先生方が興味を持った分野で、毎日コツコツと積み重ねをして、それが報われた結果であると思っております。本当におめでとうございます。

研究テーマを自由に選び、研究活動を行う場や時間が本学では保証されていますので、今後も多くの研究者が優れた研究を行い、社会に向けて研究成果を発信し、法政大学の研究ブランドを高めていただきたいと思います。

教育という側面では、文系、理系とさまざまな学問分野があり、そのアプローチの仕方はいろいろありますが、求道し、究めていく研究者の姿を直接、学生に見せることこそが、本当の教育であると思っています。先生方の研究に対するひたむきな思いや、研究のプロセスを見て、次の世代の若い研究者が育ち、大きな成果を上げる事を期待しております。

HOSEI EYE

法政の「いま」をお伝えします。

コロナ禍でも学生たちは 工夫して企画を実施しています

多摩オープンキャンパスリーダーズ(学生スタッフ)が企画・運営 「法政トーク」

多摩キャンパスに所属する学生が、学生生活や自身の受験体験談をテーマに、受験生向けに情報を発信するトーク企画です。本企画は8月22日(土)に「多摩 WEB オープンキャンパス」企画の一つとしてライブ配信したもので、好評につき9月12日(土)に第2弾、10月21日(水)に第3弾を配信しました。視聴者からは学部の特色に関する事など、多くの質問が寄せられ、トークは大いに盛り上がりました。同動画は多摩オープンキャンパスリーダーズ YouTube チャンネルにて公開中です。なお、本企画は今後も継続して実施していく予定です。



トーク実施中の様子(感染症拡大予防対策を実施しながら撮影)



第2弾のメンバーも素晴らしいチームワークを発揮しながら撮影



<https://www.youtube.com/channel/UC1zLX7h2X2kbMMU6RWoxCJw/videos>

ボランティアセンター学生スタッフ(VSP)が企画・開催 「インクルーシブデザイン講座(オンライン)」

インクルーシブデザインとは、現代の多様性に寄り添うためのデザインの考え方や手法です。障がいのある方や高齢の方、外国人など、特別なニーズや違いのある人の多様な視点を手掛かりに、より創造的で包括的なデザインを模索します。今回は、企画から実施まで、全てをオンラインで行い、従来の講師による講義に加えて、事前勉強会を取り入れるというVSPにとつての新たな試みとなりました。参加学生からは「受講後、切符を買うときの音や、トイレの設備など、別の視点からデザインを見ることができました」などの感想が寄せられました。



マスクのデザインについて考える事前勉強会



「『マスクをする』という行為をデザインする」など、視点を変えた本講義

体育会本部と応援団の共同企画

「チャンス法政」をマスターしよう!

体育会活動の大会で必ず歌われる応援歌「チャンス法政」。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により多くの大会が中止され、新入生や在学生が応援歌を覚える機会も奪われてしまいました。このような状況下でも皆さんが「チャンス法政」をマスターできるよう、体育会本部と応援団は共同で応援指南の動画を作成し、配信しています。9月以降、各連盟、各大学、体育会の各部の徹底した感染症予防対策により、徐々に大会が再開されてきました。ぜひ動画を見て「チャンス法政」をマスターし、法政スポーツを応援してみませんか。



応援指南動画 応援歌「チャンス法政」(限定公開動画)



<https://www.youtube.com/watch?v=gqW7Z1sTZqo&feature=youtu.be>

課外教養プログラム KYOPRO学生スタッフが企画・開催

「大学生からのコミュニケーション」

「オンラインでのコミュニケーションって難しい……」そんな不安を抱える学生の不安を取り除き、オンラインでの交流や今後の学生生活をより有意義にするためのコミュニケーションスキルについて学ぶことを目的に実施した企画です。本学兼任講師である鈴木まり子先生による講義の後は、実践も兼ねてグループワークが行われ、初対面であるはずの参加者同士が楽しそうに話している場面も見受けられました。



企画内容が表現されたカラフルなポスター



学生スタッフを進行役にグループワークを実践する参加者

HOSEI 11・12 Contents

communication magazine 2020

- 02 HOSEI EYE コロナ禍でも学生たちは工夫して企画を実施しています
- 03 2019年度の研究・教育活動に対する受賞・表彰者の紹介 VOL.2
- 10 資格・採用試験への挑戦
- 12 卒業生インタビュー
「最先端のAI技術を実用化し、サイバー攻撃への不安を無くしたい」
株式会社ChillStack 代表取締役 伊東 道明 さん
- 14 ESSAY
「環境負荷の少ない高分子素材の開発」
生命科学部環境応用化学科 教授 杉山 賢次
- 16 HOSEI PHRONESIS VOL.32
「歴史に刻まれた人間模様から 米国を対象化して考察」
法学部政治学科 教授 中野 勝郎
- 18 MY CAMPUS, MY LIFE
社会学部社会学科 堀川三郎教授ゼミ/Jazz Study Club
- 20 Message 「どこからでも見られる時代に現場の空気感を」
スポーツ法政新聞編集長 社会学部メディア社会学科3年 磯田 健太郎 さん

- 21 THE SCENE VOL.124 ソフトテニス部
- 22 後援会だより「キャリアセンターから会員の皆さまへ」
「2020年度支部体制スタート」ほか
- 26 HOSEI ミュージアム VOL.014
「女性である前にまず人間であれ〜作家・野上弥生子と女子教育の幕開け〜」
- 27 校友会だより
- 28 HOSEI TOPICS
- 30 2019年度自由を生き抜く実践知大賞 4
- 31 BOOKS

COVER 市ヶ谷キャンパス 撮影：平野太呂

55・58年館の解体が進み、大内山校舎、ボアソナード・タワー、富士見ゲートの3校舎が並び立つ姿を見られるようになりました。工事の進捗とともに市ヶ谷キャンパスは変化を続け、新しい景色が誕生しています。



日本マーケティング本大賞 2019／日本マーケティング学会

受賞内容 共編著書『1からのデジタル・マーケティング』



Nishikawa Hidehiko

神戸大学大学院経営学研究科市場科学専攻博士課程後期課程修了。博士(商学)。ワールド、ムジネット取締役、立命館大学経営学部教授を経て、2010年より現職。専攻はマーケティング論、ユーザー・イノベーション論。



記事の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」に掲載しています。

デジタル社会のマーケティングの基礎理論

日本マーケティング本大賞とは、日本マーケティング学会がマーケティング理論や実践の普及のため、1年間に日本で出版されたマーケティングに関する書籍の中から、同学会員の投票により推薦できる書籍を選出し、表彰するものです。本書は、2019年度の「大賞」を受賞いたしました。学会は、以下を推薦理由としています。

『「デジタル・マーケティングの基礎を学べる有益な1冊」——理論と事例をセットにしたわかりやすい構成によって変化の速いデジタル・マーケティングのマネジメントを網羅的に提示した、実務的な示唆を多分に含む良書である。新しい事例が豊富に扱われているとともに用語の解説が的確であり、流行りものとしてではなく基礎的なアプローチから読み解かれている。デジタル・マーケティングを体系的なテキストの形でまとめるという困難に初めて向き合っただけでなく、従来のマーケティングとの接続にも目配りされており、伝統的なマーケティングの理解が深まる点も評価できる。デジタル・マーケティ

ング初学者にとって良質の入門書であるだけでなく、マーケティングに関わる者にとって必携の1冊といえる」

多くの優れたマーケティング関連の書籍が発行される中、研究書ではなく、テキストが学会の大賞を受賞したということは画期的かと思います。日本マーケティング学会の学会員の皆さまをはじめ、本書の出版にご尽力いただいた学習院大学の澁谷覚教授や共著者、碩学舎ならびに中央経済社の皆さまに、改めて感謝いたします。

本書を読まれた学生や企業の皆さまが、デジタル・マーケティングの基礎理論を身につけ、ますます進展するデジタル社会でご活躍されることを望んでいます。



受賞対象の著書



CITS 2019【Best Paper Award】／IEEE Communications Society

受賞内容 論文『Switch Fault Tolerance in a Mirrored K-Ary N-Tree』



Li Yamin

Graduated and got a Ph.D degree from Tsinghua University. After working at Tsinghua University and the University of Aizu, he became a professor at the Faculty of Computer and Information Sciences, Hosei University in April 2000.



記事の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」に掲載しています。

Switch Fault Tolerance in a Mirrored K-Ary N-Tree

Fat-tree and Clos network are the commonly used topologies of the interconnection networks in current large-scale parallel computers. They provide high path diversity but meanwhile require a higher number of switches and have a greater packet latency than other low cost multistage interconnection networks. A Mirrored K-Ary N-Tree (MiKANT) network is a variant of fat-tree aimed at reducing hardware cost and packet latency. MiKANT doubles the number of compute nodes of the fat-tree by adding a few switches and making all the switches have a same radix. **Fig. 1** shows a MiKANT(k,n) with k=3 and n=3.

The purpose of fault tolerant routing is to find a routing path from source node to destination node with high probability in a system with switch or link faulty. We proposed three fault tolerant routing algorithms: one-port algorithm, all-port algorithm, and go-back algorithm.

We have evaluated the performance of these algorithms through simulations. The network is a MiKANT(4,5) with 2,048 switches and 2,048 compute nodes. Some switches are marked as faulty randomly. For each routing, we randomly select two distinct compute nodes as the source

and destination, respectively.

Fig. 2 shows the successful routing ratios of the algorithms with the switch faulty rate ranging from 0% to 100%. We can see that the go-back-three algorithm has better performance than others. Obviously, if the switch connected to the source node or destination node is faulty, for any algorithm it is impossible to perform the routing successfully. The curve labeled with "S/D switch faulty" shows the ratio of such a case.

Fig. 3 shows the average path length when the routing is successful. The reason why the average path length becomes short when the switch faulty rate is high is that in such high faulty rate, only the routing can be successful between two nodes that have a short distance between each other.

Fat-tree is widely used in recent designs of supercomputers. As a variant of fat-tree, the MiKANT network can achieve high performance at low implementation cost. The proposed three simple fault tolerant routing algorithms are deadlock-free and can find a path between source and destination nodes at high probability. The future research work may include the link fault tolerant routing in MiKANT and implementation of MiKANT on a chip.

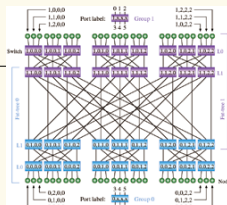


Fig. 1. A Mirrored 3-ary 3-tree

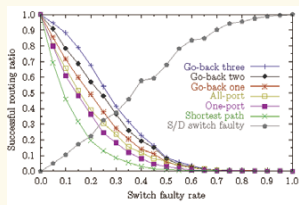


Fig. 2. Successful routing ratio on switch faulty

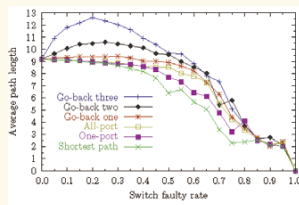


Fig. 3. Average path length on switch faulty

※三つの図の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」にてご確認ください。



令和元年度日本体育測定評価学会【学会賞】／日本体育測定評価学会

受賞内容 論文『就学段階ごとの運動経験が大学生における把握の調整力に及ぼす影響』



Hayashi Yoichi

1973年福島県生まれ。福島大学教育学部卒業、筑波大学大学院体育科学研究科博士後期課程修了。博士(体育科学)。筑波大学COEプログラム研究員、千葉工業大学助教を経て、2011年4月より現職。専門分野は生理心理学、運動生理学。



記事の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」に掲載しています。

力を適切に発揮する能力と児童期の運動

飲み物の入った紙コップを、コップを潰さずに持つ。誰もが意識せずに行っている動作ですが、実際には紙コップの軟らかさと重さを知覚し、それを潰さず持つために手の骨格筋が適切に筋収縮をしています。このような能力を、「調整力」といいます。

今回受賞した論文では、局所的な動作である「握力」を調整して発揮する能力を指標として、就学前、小学校低学年、小学校高学年、中学校、高等学校および大学生の各就学段階における運動経験や運動量(運動時間×強度)との関係性を検討しました。例えば、握力計を握る際に「最大努力で握った握力の30%の握力を発揮してください」と指示された時、うまく力を調節して握れるでしょうか。この研究では、最大努力で握力計を握った時の握力を100%とし、その30%、50%、70%を目標値に設定して、測定している数値は見ずに握力計を握り、目標となる数値と実際に測定された握力の値の差異が小さいほど調整力が高いと判断しました。

大学生を対象に、握力の調整力と過去の運動実施状況を測定・調査した結果、小学校の低学年の時期にしっかりと運動を行っていた学生ほど、握力の調整能力が高いという結果が得られました。極端な例を挙げると、高等学校時代に部活動でスポーツを毎日行っていた学生でも、小学校の時に何も運動を行っていなければ、大人になってからの握力の調整能力が低いレベルに留まってしまいます。もちろん、すべての人々が必ずこのような状況になるわけではなく、青年期の運動習慣や小、中、高での運動部での活動が身体の調整力の向上に全く貢献しないという訳ではありません。しかしこの研究で、小学校の時期にしっかりと身体活動を行うことが青年期以降の個々人の調整力に対して有益であることが示唆されたことは、幼児・児童期における運動や身体活動の在り方を考える上で有益な知見になりうると考えています。



① 2019年日本心理学会学術大会【優秀発表賞】／公益社団法人日本心理学会

②第11回錯視・錯聴コンテスト【グランプリ】、【入賞】／錯視・錯聴コンテスト審査委員会

受賞内容 ①発表題目「分裂線錯視：格子錯視の一変種の報告とその知覚特性についての検討」
②作品名「分裂線錯視」(グランプリ)、作品名「格子のないきらめき格子錯視」(入賞)

Matsuno Toyomi

京都大学総合人間学部卒業、同大学院理学研究科修士課程・博士後期課程修了(理学博士)。2012年より本学経済学部准教授に着任、現在に至る。研究分野は比較認知科学、実験心理学。

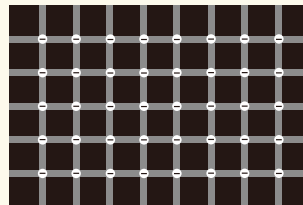


記事の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」に掲載しています。

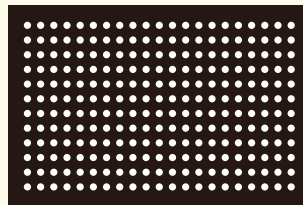
新しい格子錯視の発見

「格子錯視」として知られる幾何学錯視のバリエーションを新たに二つ見いだしました。下図左側の「分裂線錯視」は1本の線がぶれて2本に見える錯視、下図右側の「格子のないきらめき格子錯視」は円の中にほんのかすかに黒い点が見える、という錯視です(目をよく動かしながら、注意深く観察してください。見つめている点ではなく視野の周辺で見えやすい特徴があります。画像の大きさによっても見えやすさは変わりますので、見えにくい場合は見る距離を変えてみてください)。

どちらも大変に地味な錯視ですが、私たちのモノを見る仕組みを考える上で、新しい知見をもたらす興味深い現象です。錯視を研究することは、私たちがどのような仕組みで世界を見ているのかを調べることです。これらの錯視の何が面白いのかというと、どちらも、これまでに定説とされてきた類似の錯視の生起メカニズム



分裂線錯視



格子のないきらめき格子錯視

※二つの図の錯視が見えづらい場合は、より鮮明な図をブランディングサイト「法政フロンセス」にてご確認ください。



第12回日本ロボット学会【功労賞】／一般社団法人日本ロボット学会

受賞内容 業績「RO-MAN の運営に対する貢献」



Kobayashi Hisato

早稲田大学理工学部電気工学科卒業、同大学院理工学研究科電気工学専攻博士後期中退。工学博士。1984年より工学部専任講師、1992年よりデザイン工学部教授。日本学術会議連携会員、計測自動制御学会副会長などを歴任。IEEE Life Fellow。



記事の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」に掲載しています。

国際性と学際性

2019年9月に日本ロボット学会から第12回ロボット学会功労賞（RO-MAN の運営に対する貢献）をいただきました。この場をお借りして経緯などを記させていただきますと存じます。

私の専門は制御工学およびロボット工学です。ある時、そのような「ロボット（高度な知的機械）」と「人間」の関係は良く考える必要があるのではと思いました。

尊敬する先輩たちと新しい研究分野を作ろうということになり、最年少の私が新分野の国際会議をスタートさせることになりました。今から約30年前のことでした。

紆余曲折を経て、1992年に「RO-MAN」という略称の国際会議を法政大学多摩キャンパスにある百周年記念館で開催することができました。現在の正式名称は「IEEE International Conference on Robot and Human Interactive Communication」です。

「国際性」と「学際性」を目指し、毎年世界各地で開催する会議ですが、最初の10年間は目標からはほど



多摩キャンパス百周年記念館で行われた「RO-MAN'92」の様子

遠いものでした。その後、状況は徐々に好転し、現在は教育学、認知科学などの優秀な研究者が数多くこの会議に参加しています。2017年にはニューヨークで25周年記念大会を開催することができました。

この国際会議を通じて、いろいろな分野の人々とお話しさせていただき、私が強く感じたことがあります。研究分野にはそれぞれの「独特の文化」があり、多くの研究者はその「独特の文化」が「宇宙で、普遍で唯一なもの」であると信じて、「他の文化」に否定的であることです。これは、私自身も深く反省した点であり、現在も常に戒めている点です。

私は「学際性」と「国際性」をもったRO-MANという国際会議の運営を通して、自分の立ち位置を再認識することができ「無知の知」を得ることができたことに感謝しています。



APACM Award for Senior Scientists／APACM (The Asian Pacific Association for Computational Mechanics)

受賞内容 業績「アジア太平洋地域の計算力学への多大な貢献（指名時65歳以上の人に授与）」



Takeuchi Norio

中央大学理工学部土木工学卒業、同大学院理工学研究科土木工学博士前期課程修了。工学博士。東京大学助手、明星大学教授を経て1999年工学部土木工学科教授に着任。2008年理工学部機械工学科教授、2014年より現職。



記事の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」に掲載しています。

理論力学・実験力学と計算力学

私の研究内容は計算力学に基づき、さまざまな現象をシミュレーションにより解明することです。最近、新型コロナウイルスの関係で、理化学研究所が次世代スーパーコンピュータ「富岳」を用いて解析した、会話や咳などの際の飛沫の拡散状態に関する結果がTVなどで公開されています。これは、物理法則に基づいて計算された結果をCG（コンピュータ・グラフィックス）により可視化したもので、計算力学を用いた応用例といえます。このような結果を通して、感染防止対策の方法が見えてくるわけです。この例のように、計算力学は、一つ一つの課題の本質を見極め、課題の解決を図る学問といえます。

私の研究室では、計算力学の利用方法や新しい手法の開発を行っています。地滑りなどの地盤災害への計算力学の応用もその一つです。滑りといった不連続な現象を解明する必要がありますが、東京大学の川井忠彦先生が開発した手法を学ぶ機会を得て、地盤災害に応用することで、安全性を照査する方法を開発しました。現

在は、健全な状態から、破壊が進み、崩壊状態となった後、崩れていくという現象をシームレスに解析できる「マルチステージ破壊シミュレーション」手法の開発を進めています。また、生体力学に応用し、関節の接触シミュレーションも行っています。

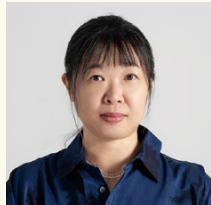
自然災害を未然に防ぐには限界があり、避難シナリオを作成して事前に訓練しておくことが大切です。いくつかのシナリオを作成し、AI（人工知能）により効果的な避難行動について検討するといった研究も進めています。

これまでの計算力学への貢献に対して、2019年12月に、APACM（The Asian Pacific Association for Computational Mechanics）より、「APACM Award for Senior Scientists」を授与されました。これは3年に1回、アジア太平洋地域において計算力学に多大な貢献をした受賞時点で65歳以上の人に対して贈られる賞です。これまでの計算力学に関わる活動や研究に対してひとまず評価いただけたと感じています。



- ① 2019（令和元）年・第7回京都建築賞【最優秀賞】／一般社団法人京都府建築士会
- ② International Architecture Awards 2019【Transportation】／The Architecture Community
- ③ ・日本空間デザイン賞 2019【大規模商業空間部門銀賞】／一般社団法人日本空間デザイン協会&一般社団法人日本商環境デザイン協会
・第64回鉄道建築協会賞【特別賞】／一般社団法人鉄道建築協会
・2019年度グッドデザイン賞【ベスト100】／公益財団法人日本デザイン振興会

受賞内容 ①作品「京都外国語大学新4号館」、②作品「アストラムライン新白鳥駅」、③作品「渋谷ストリーム」



(C) ToLoLo studio

Akamatsu Kazuko

1990年日本女子大学家政学部住居学科卒業後、シーラカンサアンドアソシエイツ（後のC+A、CAI）に加わる。2002年よりパートナー。2013年デザイン工学部建築学科准教授に着任、2016年より教授、現在に至る。



記事の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」に掲載しています。

建築の設計実務と大学教育

法政大学のデザイン工学部建築学科には、社会における実践的な設計活動と大学での教育活動の両方に携わっている教員が多く在籍しています。研究活動、教育活動、設計活動を横断的に行うことでさまざまな知見を学生たちに伝え、問題抽出から課題解決、実践的思考などを深める教育を実践しており、その幅の広さが大きな特徴であり魅力の一つであるといえるかもしれません。

ご紹介する三つのプロジェクトは、おのおの規模や用途、機能などが全く異なります。ただ、建築の設計において共通しているのは、その場所に対する固有性を持ち、必ず人々のアクティビティが関係し、さまざまな意味で周辺環境に影響を与えていることです。

「京都外国語大学新4号館」（京都市）はラーニングセンターです。学生たちのさまざまな活動をサポートする場として座れる大階段、吹き抜け周りのカウンター、自由に使える家具などを点在させました。

「アストラムライン新白鳥駅」（広島市）は、新交通システム・アストラムラインと、既存のJRの高架駅をつなぐための乗換駅です。非常に交通量の多い国道の中州という特殊な場所に敷地があり、都市の新しい結節点をどのように作り出すのかを模索しました。

「渋谷ストリーム」（東京都）は、東横線渋谷駅跡地という渋谷を象徴する場所の巨大再開発プロジェクトです。渋谷川、JR、東横線、明治通り、首都高が交わる複雑な都市のただ中に、「かつて地上にあった渋谷駅」の記憶を継承し、鉄道高架という土木遺構や渋谷川を取り込みながら、渋谷らしさを生かした場所としました。

建築の設計は、さまざまな条件や要望、コスト、期間など多くの事柄が複雑に絡み、決して同じではなく、広く文化や経済、思想にまでかかわる奥行きのある思考を伴います。社会と直接関わる設計活動を行っているからこそ学生たちに伝えることができる事柄を、大学での教育にしっかりと生かしていけるようにと考えています。



- ①平成30年度第5回青葉工業会奨励賞／青葉工業会（東北大学工学部同窓会）
- ②第5回「まちなか広場賞」【奨励賞】／一般社団法人国土政策研究会（公共空間の「質」研究部会）
- ③ 2019年度長崎市都市景観賞【公共施設部門都市景観賞】／長崎市都市景観賞表彰実行委員会

受賞内容 ①業績「出島表門橋および架橋プロセスのデザイン」②作品「三角東港広場羽末の公園（うみのこうえん）」③作品「出島表門橋・出島表門橋公園（江戸町）」



Watanabe Ryuichi

1976年山梨県生まれ。東北大学工学部建築学科卒業、同大学院工学研究科都市建築学専攻修士課程修了。2012年よりネイ&パートナーズジャパン代表取締役。2017年よりデザイン工学部都市環境デザイン工学科特任・任期付講師。



記事の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」に掲載しています。

三角港キャノピー（まちなか広場賞）

JR 熊本駅から観光列車であるA列車に乗って約40分、終着駅が三角駅です。列車を降りて駅に着くと、90年代にできた海のピラミッドと大きな駐車場の風景が整備前の状況でした。地域の方々イベント活用でき、駅から天草方面へのフェリーの乗り換え待ちの観光客が滞在できる公園、駅前空間へ整備しようというのが、「三角港港湾海辺空間創造工事」です。本プロジェクトは、その整備の中の三角駅からフェリー乗り場までを誘導するための通路キャノピーです。平面を描くと自然と円弧になるキャノピーを、いかにシンプルに設計するかを追求しました。

設計条件は、三角駅からの海への眺望を遮らない高さに屋根を設定すること、将来のバス停留所の屋根を兼用する可能性を考慮し、天井高4.5mとすること以外は自由でした。海のピラミッドの幾何学的な強い造形、有機的な天草のしまなみの曲線の風景とのバランスから、シンプルでフラットな屋根とし、支柱には鋳鋼を採

用。2ピースをネジ込みで接合し、上部は放物線形状に機械加工、下部は鋳肌を残しつつ地面になじむ形状とすることで、支柱と地面がやわらかく有機的に接続します。支柱頂部に光学ガラスの照明を設置、支柱に鋳鋼を採用し、港の風景を演出することとしました。夜の蒼く暗い海辺の風景の中で、支柱の照明が点状に連続する静かな風景を想像したからです。昼間は、反対に支柱が地面から重厚感を持ってそびえ、屋根が浮いています。

構造システムとしては、支柱頂部をピンにして、円弧の平面線形を利用して、柱を内側に偏心させ、全体で構造をバランスさせるリングガーダーのような構造です。遠景からは規則正しい列柱とシンプルな円弧が海のピラミッドを含んだ港の風景と調和します。反対に歩行空間としては支柱の通り芯が互い違いに偏心していることで、支柱が不規則に体感され、多様な変化に富んだ空間となります。



第4回（2018年度）日本セラミックス協会フェロー表彰／公益社団法人日本セラミックス協会

受賞内容 業績「気相法、液相法を用いて種々の機能性セラミックスナノ粒子を創製」



Ishigaki Takamasa

東京大学大学院工学系研究科工業化学専攻博士課程修了。工学博士。科学技術庁無機材質研究所（現 国立研究開発法人 物質・材料研究機構）を経て、2009年より現職。2016～2018年生命科学部長。専門は、セラミックス材料科学。



記事の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」に掲載しています。

日本セラミックス協会フェロー表彰

私は、茨城県つくば市にある国立研究所で、セラミックス材料の気相合成に関する研究を開始しました。2009年に法政大学に移ったのを転機として、水溶液プロセスを利用したセラミックス材料合成にも取り組んでいます。

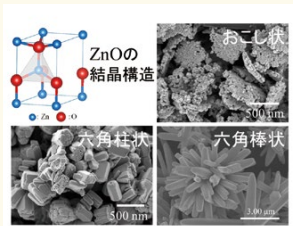
1万度以上の高温プラズマ中の非常に小さなナノサイズ粒子（1ナノメートルは10のマイナス9乗メートル）の気相合成では、気相から微粒子として凝縮するときの急冷効果が顕著です。

ある温度で本来的に安定に存在する物質に加えて、特別な条件によってできる物質が生成します。材料科学の言葉で表現すると「非平衡相物質が生成」となります。非平衡相物質の合成そのものに加え、生成メカニズムの探求も重要です。非平衡相物質がなぜ生成するのか解明できれば、私たちにとって役に立つ特性を持った材料合成につながります。

現在は、液相化学反応により微粒子を合成していま

す。例えば、酸化亜鉛の微粒子を合成するときには、塩化亜鉛、硝酸亜鉛などを水に溶かします。この水溶液のpHを上昇して塩基性にしたのち、少し加熱すれば結晶性の酸化亜鉛が生成します。

図は、さまざまな形態の酸化亜鉛微粒子を示したものです。原料濃度、反応温度により、微粒子の粒径、形態が変化します。複数の試薬を加えるときは、どちらを先に加えるかによって生成物に差が生じることもあります。結晶成長の多様性を掘り下げて、高機能物質の合成に取り組むのは大変にエキサイティングです。



水溶液法により合成した多様な形態の酸化亜鉛微粒子



リサーチフェロー賞（Research Fellow Award）／北米スポーツマネジメント学会（North American Society for Sport Management）

受賞内容 業績「Team identification, fan loyalty, engagement behavior in the sport context」：スポーツマネジメント関連の研究成果が一定の基準を満たしたことに対する表彰



Yoshida Masayuki

1979年新潟県生まれ。筑波大学体育専門学群卒業、同大学院体育研究科修士課程修了。米国フロリダ州立大学スポーツマネジメント学科博士課程修了。博士（スポーツマネジメント）。2017年より現職。専門分野はスポーツ科学。



記事の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」に掲載しています。

スポーツマネジメントのリサーチフェロー賞

毎年、北米スポーツマネジメント学会は一定の資格要件を満たした研究者にリサーチフェロー賞を授与しています。29歳で大学教員になった私は、リサーチフェロー賞の獲得を30代の目標として掲げ、40歳となった2019年に目標を達成することができました。

リサーチフェローになるためには（1）15編以上の査読付き論文を有し、そのうち少なくとも3編は学会誌のJournal of Sport Managementの論文であること、（2）北米スポーツマネジメント学会で少なくとも6件の発表を行い、他の学会発表と併せた合計が20件以上であること、という二つの条件を満たす必要があります。

2019年までに35編の査読付き論文を発表（うち6編はJournal of Sport Managementに掲載）するとともに、国際学会で23件の口頭発表（うち15件が北米スポーツマネジメント学会での口頭発表）を行いました。論文数は問題なかったのですが、国際学会での発表に手間取り、受賞までに長い期間を要しました。

これまでに発表してきた論文の中で、学会に大きな影響を与えたものは2014年の論文です。この研究はスポーツファンが試合運営に協力したり、他の観戦者と助け合ったり、たとえ応援するチームが成績不振に陥っても、寛容な姿勢で応援したりするような「非商業的なエンゲージメント行動」の存在を明らかにしました。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大でスポーツファンも行動変容が求められています。こうした状況下において、ファンエンゲージメントという協力的な観戦者行動はその重要性をより一層高めています。

現在はウェルビーイングをテーマに研究を行っています。国際連合が発表したSDGs（持続可能な開発目標）の3番目の開発目標「すべての人に健康と福祉を」のもと、ウェルビーイングとスポーツ観戦の関係性を科学的に解明することで、スポーツ観戦が人々にとって単なる娯楽でなく、人生において必要不可欠な人間的営みであることを証明したいと考えています。

① GCCE2019 (2019 IEEE 8th Global Conference on Consumer Electronics)Excellent Paper Award【Outstanding Prize】／IEEE Consumer Electronics Society
② 令和元年度情報・システムソサイエティ活動功労賞／電子情報通信学会受賞内容 ①論文『Detection of Malicious Communication Using DNS Traffic Small features.』／共同執筆者：向後宗一郎（学生）
②業績「情報通信システムセキュリティ特集号編集委員長・編集幹事および英文論文誌編集幹事としての貢献」

Kanai Atsushi

東北大学大学院工学研究科情報工学博士前期課程修了。博士（情報科学）。2008年より法政大学理工学部応用情報工学科教授に就任。専門は情報ネットワーク、セキュリティ。電子情報通信学会シニア会員、情報処理学会シニア会員、IEEE Senior Member。



記事の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」に掲載しています。

安心安全なネットワーク社会を目指して

①の受賞について：今日、膨大なIoT（Internet of Things）デバイスがインターネットに接続されています。IoTデバイスは汎用コンピュータと異なり、完全にBOT（作業を自動化するプログラム）感染を防止、検知するのが難しい状況です。そこで、個々のデバイスではなく、トラヒック（ネットワークを流れる情報）を観察することにより、悪性のトラヒックを検知する方式を提案しました。本研究で提案しているのは、インターネット利用時には必ず使用し、比較的シンプルな構造のDNS（Domain Name System）プロトコルを観察することにより、悪性なトラヒックを検知する手法です。

具体的には、DNSパケットの中のいくつかの特徴量を抽出し、ランダムフォレストという機械学習法（人工知能の一種）を用いて、BOTが利用したDNSトラヒックを検知できるかどうかを検証。その結果、非常に効率よくかつ高い正確さで検知できることを示しました。

②の受賞について：電子情報通信学会は、日

本の電気電子分野およびICT（Information and Communication Technology、情報通信技術）分野で日本最大と言える学会です。六つのソサイエティ（団体）があり、そのうち4ソサイエティが和文、英文でA（基礎・境界）、B（通信）、C（エレクトロニクス）、D（情報・システム）分冊にした論文誌を発行しています。

電子情報通信学会は日本の学会の中で、純粋な英語論文誌を出している貴重な学会であり、日本の学会が発行する論文の中で数少ないインパクトファクター（文献に引用された頻度を測る指標）が付く要件を満たしている論文誌です。各論文誌は詳細な分野ごとに特集が組まれることがあり、通常の編集体制とは異なり、特集ごとに編集体制が組まれます。

本表彰は、情報・システムソサイエティが発行している英文論文誌D分冊の特集号『情報通信システムセキュリティ特集号』の編集長、編集幹事、および通常論文の編集委員会幹事を務めたことによる功績です。



TCDP Awards【2019 Outstanding Service Award】／IEEE Computer Society Technical Committee on Distributed Processing (IEEE TCDP)

受賞内容 業績「分散処理分野の進歩に貢献」



Takizawa Makoto

東北大学工学部応用物理学科卒業、同大学院工学研究科応用物理学専攻博士前期課程修了。工学博士。2013年より理工学部創生科学科教授に着任、現在に至る。情報処理学会理事、フェロー。IEEE Computer SocietyのBoard of Governors。



記事の詳細はブランディングサイト「法政フロンセス」に掲載しています。

大規模な分散システムの国際的な研究

分散システムは、複数のコンピュータが互いにネットワークでメッセージ通信を行いながら、ある目的を達成するように協調動作を行うシステムです。近年は、クラウドコンピューティングシステム、IoT（Internet of Things）のようにシステムが大規模化し、これに伴いシステムで消費される電力も増大してきています。法政大学に2013年に赴任してからは、研究室の大学院生、学部4年生らと、情報システムで消費される電力を、ソフトウェアの観点で低減する研究に従事しています。

2019年7月に、IEEE Computer SocietyのTechnical Committee on Distributed Processing（TCDP）から「Outstanding Service Award」を受賞しました。

TCDPは、IEEEのComputer Societyの中で、コンピュータネットワーク、分散システム、IoT、これらの応用についての研究会です。本分野にまつわる数々の国際会議を主催し、中でも国際会議ICDCS（International Conference on Distributed Computing

Systems）は、本分野のprestigeの国際会議です。

私は論文を発表するとともに、ICDCS-1998（Amsterdam, 1998）にてProgram Chair、ICDCS-2002（Vienna, 2002）ではGeneral Chairを務めました。

また、2003年から2008年まで2期にわたり、IEEE Computer SocietyのBoG（Board of Governors）のメンバーに選出され、学会の運営も国際的に行ってきま

した。こうした業績が評価され、今回の受賞となりました。本賞は、TCDPでも数人が受賞しているだけで、日本人としては初めての受賞でもあります。



受賞記念の盾

資格・採用試験への挑戦

さまざまな資格・採用試験の中でも難関として知られる
司法試験、公認会計士試験、そして公務員採用試験。
本学のサポート体制を紹介します。

難関試験突破をサポート する本学の取り組み

本学では、学生の希望に応じた資格取得や採用試験突破を支援する多彩なプログラムを用意し、キャリア形成をサポートしています。中でも難関試験といわれる司法試験、公認会計士試験については、正規のキャリアムとは別に資格取得支援のためのプログラムを開設しています。

司法試験を受験するには、法科大学院を修了するか、予備試験に合格して受験資格を得なければなりません。本学の法科大学院（専門職大学院法務研究科法務専攻）では、優れた教授陣による少人数教育、先進的な実務教育、多様なキャリアムと高度な設備により、現代社会の複雑な法律問題に対応できる法曹を養成しています。法学部法律学科では法曹コースを設置し、法科大学院と連携した一貫教育を行っており、条件を満たせば大学入学から最短5年で法科大学院を修了することができます。

また、学部から法科大学院への進学を念頭に置きつつ、司法試験に合格する学力の修得支援として、公務人材育成センター（次ページ参照）が「法職講座」を開設しています。法職講座から法科大学院へとつながる体制により、より効果的な司法試験対策のための環境が整っています。

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、オンラインによる授業を実施しています。3年次必修科目の「刑事訴訟実務の基礎」では、授業の集大成となる交互尋問（模擬裁判）について、教育効果を高めつつ、「密」を回避するため、法廷教室を中心に、教室での対面とオンラインによる「ハイブリット方式」にて2日間実施しました。全体打ち合わせの後、担当の役割（裁判官、検察官、弁護士、傍聴人）ごとに教室に分かれて、ビデオ会議システムを介し、スクリーンを見ながら模擬裁判を行いました。教室は分散しているものの、担当教員の指導のもと、緊張感を共有しながら全員が法曹三者の役割を順々に体験することで、「これまで学んできた刑事訴訟法が、実際の事件でどのように適用されるのか実感することができた」と参加した学生にはとても好評でした。

本年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、両講座とも春学期からウェブ講座に変更して実施しています。通常は対面で行う講師との個別相談や面接練習会、各種ガイダンスなどもウェブ会議ツール（オンライン）や動画コンテンツを積極的に活用し、平常時と同等の支援を継続しています。

公務員採用試験対策については、公務人材育成センターによる「公務員講座」が開設され、学年に応じたカリキュラムにより徹底した学習指導を行っている他、キャリアセンタ―でも公務員試験ガイダンスや省庁・自治体を招いての公務員業務説明会など、さまざまな支援行事を展開しています。こうした取り組みにより、毎年多数の公務員内定者を輩出し、「公務員に強い法政大学」を印象付けています。



（左）「卒業生による公務員の仕事相談会」の様子
（右）公務員講座内イベント「国家公務員の仕事を知らう」の様子
※写真はいずれも昨年の様子



公務人材育成センター（公務員講座・法職講座）

公務人材育成センターは、2011年4月、「公務を担う人材＝公務人材」の育成を目的として設置されました。本センターでは公務員と法曹を公務人材の中核に位置付け、これらを目指す本学学生を支援するために、「公務員講座」「法職講座」を設置・運営しています。

講座はそれぞれ、公務員試験、法科大学院入学試験の対策を柱としていますが、試験対策にとどまらず、本学卒業・修了生で公務員や法曹として活躍されている方々の協力も得ながら、有為な公務員と法曹の育成を目指しています。

【公務員講座】公務員入門講座（1年次）、公務員基礎講座（2年次）、国家・地方公務員上級職対策講座（3年次）を開講。学年に応じた学習カリキュラムと徹底した指導が特色です。

【法職講座】司法試験合格を目指して、学部生の段階で学習しておくべきカリキュラムを提供し、基礎力を養成します。講義は、提携する外部専門学校の講師や、本学卒業・修了の弁護士が担当し、学生個別の学習・進路相談にも応じています。

※講座の内容は、年度によって変更になることがあります。

高度会計人育成センター（会計専門職講座）

高度会計人育成センターは、2014年4月、公認会計士、税理士などの高度会計人を目指す学生の育成を目的として設置されました。

本センターでは、全ての高度会計人に必要不可欠である簿記の資格取得を目指す会計専門職講座」を開設しています。市ヶ谷、多摩の両キャンパスでコースを設置し、日商簿記検定試験3級から最終的には1級に合格する力がつくまで、卒業生の会計士を中心とした講師陣がきめ細かく指導します。

講座では、欠席した際のフォローとしてウェブサイトを通して自習できるシステムを設けている他、講師による個別面談や、「計算特訓」「公開模試大会」などのイベントも開催しています。

また、日商簿記検定1級の学習をしながら、本格的に公認会計士を目指す学生のために、大手専門学校に「公認会計士接続コース」を設置し、本センターのカリキュラムと連携した効率的かつ経済的な学びのコースを準備しています。

※講座の内容は、年度によって変更になることがあります。

資格取得、キャリアアップを応援する、本学の奨学金制度

本学では、さまざまな特色ある奨学金制度を設け、学生の皆さんが意欲的に勉学に励み、充実した学生生活を過ごせるよう応援しています。

今回紹介する奨学金は、難関資格試験に合格した学部生（通信教育部生を除く）を対象とした奨学金の①**法政大学「開かれた法政21」奨学・奨励金の指定試験合格者奨励金**②**Ｌ・Ｕ（リーディング・ユニバーシティ）奨学金のＬ・Ｕ キャリア・アップ奨励金**（いずれも返還義務のない給付型の奨学金）です。

二つの奨学金の詳細は、それぞれ次の通りです。

法政大学「開かれた法政21」奨学・奨励金 指定試験合格者奨励金

奨学金額 当該年度の授業料相当額（2021年度より給付額は40万円に変更されます）

対象 当該年度中の合格者全員（年間休学者を除く）

応募・採用条件 在学生のうち、司法試験予備試験、公認会計士試験、国家公務員採用総合職試験、税理士試験（全科目合格）、弁理士試験、司法書士試験に合格した者

申請方法 申請書、各試験の合格証書のコピー、本人名義の通帳のコピー、学生証のコピーを持参または郵送で次の担当に提出してください。詳しくはHoppiiのウェブ掲示板をご覧ください。

〈司法試験予備試験〉学務部学部事務課法学部担当

〈公認会計士試験〉学務部学部事務課経営学部担当

〈国家公務員採用総合職試験〉キャリアセンター市ヶ谷事務課

〈上記以外の試験〉各キャンパスの学生センター

申請期間 2021年3月3日（水）17:00 必着

ただし、弁理士試験（全科目）合格者は3月19日（金）17:00 必着

給付時期 2021年3月末を予定しています。

ただし、弁理士試験（全科目）合格者は4月下旬を予定

Ｌ・Ｕ 奨学金

Ｌ・Ｕ キャリア・アップ奨励金

奨学金額 20万円（2021年度より5万円に変更されます）

対象 当該年度中の合格者全員（年間休学者を除く）

応募・採用条件 在学生のうち、気象予報士試験、行政書士試験、高度情報処理技術者試験（プロジェクトマネージャ試験、システムアーキテクト試験、ITストラテジスト試験、ITサービスマネージャ試験、エンベデッドシステムスペシャリスト試験、データベーススペシャリスト試験、ネットワークスペシャリスト試験、システム監査技術者試験）、情報処理安全確保支援士試験、社会保険労務士試験、税理士試験（複数科目合格者に在学中1回のみ給付）、中小企業診断士試験、通訳案内士試験、不動産鑑定士試験に合格した者

申請方法 申請書、各試験の合格証書のコピー、本人名義の通帳のコピーを所属キャンパスの学生センターに持参または郵送で提出してください。詳しくはHoppiiのウェブ掲示板をご覧ください。

申請期間 2021年2月15日（月）17:00 必着

ただし、気象予報士試験で2021年3月に合格発表があった方は3月19日（金）17:00 必着

給付時期 2021年3月末を予定しています。

ただし、気象予報士試験で2021年3月に合格発表があった方は、4月下旬を予定

その他 複数の試験に合格した場合は、それぞれの試験について奨励金を給付します。ただし、「高度情報処理技術者試験」内で複数の試験に合格した場合でも、給付は在学中1回のみです。また、「高度情報処理技術者試験」と「情報処理安全確保支援士試験」の両方に合格した場合でも、在学中1回のみ給付とします。

2020年度に税理士試験（全科目）に合格し、「開かれた法政21」奨学・奨励金指定試験合格者奨励金を受給する方は、Ｌ・Ｕキャリア・アップ奨励金を併せて受給することはできません。

これから在学中に何か資格を取得したいと思われている方は、ぜひこれらの奨学金の給付を受けられるよう、上記試験合格に向けて積極的にチャレンジしてください。奨学金についての詳細は、下記の各キャンパス学生センター奨学金担当窓口までお問い合わせください。

お問い合わせ

市ヶ谷 学生センター厚生課（外濠校舎1階）

多 摩 学生センター多摩学生生活課（EGG DOME2階）

小金井 学生センター小金井学生生活課（管理棟2階）

TEL. 03-3264-9486

TEL. 042-783-2151

TEL. 042-387-6011



HOSEI
Graduate Interview
卒業生
インタビュー

最先端の AI 技術を実用化し、サイバー攻撃への不安を無くしたい

株式会社 ChillStack 代表取締役

伊東 道明さん

大学院在学中に研究室の仲間3人と設立したChillStackで、世界トップレベルのAIセキュリティ技術の研究・開発に携わる伊東道明さん。好きなことをやり抜くには、面倒なこと、苦しいこともいとわない覚悟が必要だと言います。

このページでは、法政大学憲章の「自由を生き抜く実践知」を体现している本学の卒業生を紹介していきます。

AI技術で不正を見抜き、AIのセキュリティを追究

従来のサイバーセキュリティの基
本は「絶対にやられない」ことでした
が、現在は防御と攻撃のいたちごっこ
状態で、攻撃を100%回避するのは
今や不可能です。そこで、AI（人工
知能）技術を活用して、攻撃や不正を
早い段階で検知する技術の研究・開発
に取り組んでいます。

一方でAI技術は多大な可能性を秘
めていると同時に、危険性もはらんで
います。従来のサイバー攻撃は、基本
的にインターネット経由でなされます
が、AIに対しては、例えばカメラに
写る画像に影響を及ぼす細工を道路標
識にして、制限速度の30キロを80キロ
と勘違いさせる手法などが考えられま
す。また、学習をさせる開発段階で不



設立メンバーは全員、彌富仁研究室の同級生。左から谷洋樹さん、伊東さん、新井颯人さん、茶山祐亮さん。

適切なデータが紛れ込むと、意図せぬ判断をするAIになりかねません。

日本にはAIのセキュリティを専門とする研究者や企業がまだ少なく、各社がコストと手間をかけて対策に当たっているのが現状です。そこで、社会に安心・安全を提供するために、オンラインゲームやアプリを不正に利用しているユーザーをAI技術でいち早く検知するシステム「Stena」を提供し、AIセキュリティに関する研究・啓蒙活動も展開しています。

大学で知った セキュリティの深さと面白さ

小学生の頃からオンラインゲームに親しみ、漠然とプログラミングやゲーム作りができたらと思っていました。情報科学部と理工学部をどちらを受験



4年次に、国際学会IEEE CSPA 2018で彌富先生との共同研究を発表し、Best Paper Award(最優秀論文賞)を受賞した。

するかで悩みましたが、ロボットや機械など物との結び付きが強い印象のあった理工学部を選びました。

入学後は、やればやるほど広く深くなっていくプログラミングやネットワークの世界が楽しくて、一時は体調を崩すほど四六時中パソコン漬けの生活を送っていました。2年次からは、自分の視野を広げ、モチベーションを高めるために、「セキュリティ・キャンプ」に参加する他、他大学の学生と一緒に学生・若手エンジニアの団体「Cpaw」を設立して、勉強会やコンテストなどの活動を積極的に展開しました。

小金井キャンパスで特に思い出に残っているのが、2年次の秋に図書館に設置されたラーニングコモンズです。ホワイトボードやスクリーンなどがあつてグループワークに便利な空間ですが、まだ当時は利用者が少なく、勉強や開発コンテスト「Hack U」の準備、会社名の検討（Chillにはリラックスするという意味がある）にと、存分に活用させてもらいました。

二つの要素を組み合わせて 自分の強みを生み出す

大学の学びに実用性を求める人が少なくないようですが、数学やプログラミング理論など基礎知識となる「学問」と、

ウェブсайт構築やゲーム作りなど個人的な興味や創造性を追究する「自分の学び」は別のもの。その二つの学びを結び付けて、自分の糧にしていけるのが、本来の大学の学びだと思っています。

エンジニアも同様で、専門技術だけでなく、それを生かせる応用分野を持つことが大きな強みになります。3年次の研究室選では、セキュリティと組み合わせられる他の分野を学ぼうと考え、医療+情報工学の研究を専門とする彌富仁先生の知的情報処理研究室を希望しました。

この研究室には留学生が多くてグローバルな雰囲気があり、マシン環境も充実していて、学部・大学院の計4年間、かけがえのない時間を過ごすことができました。セキュリティ+AIという自分のテーマを確立できたのも、国際学会の発表で賞をいただけたのも、仲間と一緒に起業できたのも、すべてこの研究室のおかげです。

好きなことをやり通すには 覚悟と我慢が必要

日本は、米国や中国に比べて、AI技術の実用化が遅れています。そこで、自らが研究界と産業界の橋渡し役となり、役に立つ、面白い技術を幅広く世の中に届けたいと考え、就職ではなく仲間と起業する道を選びました。

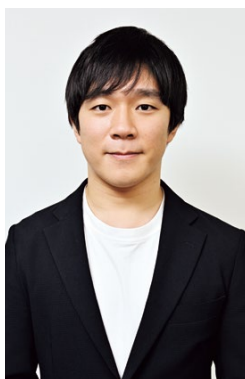
好きなことを仕事にしていますが、スポーツ選手が食事制限を強いられるように、好きなことを貫くには面倒なこと、苦しいことがたくさん伴います。

やりたいことがあるのなら、学生のうちに一度思い切りのめり込んでみて、面倒な部分も含めて「好き」と言えるものかどうか見極めることをおすすめします。

世界中で研究が同時に進行する中で、最先端の技術を追いつけるのは大変ですが、社会の変化を先取りできることに大きなやりがいを感じています。世の中の人々がセキュリティ対策に振り回されず、本来のサービス提供やものづくりに専念できるように、これからも研究とビジネスを両輪に好きなことをやり続けていきます。

Ito Michiaki

1995年中国北京市生まれ。2014年、理工学部応用情報工学科に入学。2020年3月、大学院理工学研究科修士課程（応用情報工学専攻）修了。2018年3月、IEEE CSPA 2018でBest Paper Awardを受賞。大学院在学中の2018年11月に同級生3人と株式会社ChillStackを設立。





環境負荷の少ない 高分子素材の開発

生命科学部環境応用化学科 教授

杉山 賢次

プラスチックとテフロン大統領

プラスチックという言葉は、日本ではビニールという言葉と一緒に合成樹脂製品の総称として用いられますが、元々は自在に形作れる可塑性を意味します。硬い樹脂はプラスチック、軟らかいシート状のものはビニールと呼ばれることが多いと思いますが、いずれも物理的・化学的性質を示すものではありません。

英語では、硬い軟らかいにかかわらず合成樹脂製品にはすべてplasticという言葉が使われていて、ペットボトルはplastic bottles(ビニール袋(ポリ袋))はplastic bagです。また、造形芸術はplastic art(形成外科はplastic surgery)と云う、これらはすべて原義に近い意味で用いられています。

話は変わりますが、第40代米国合衆国

大統領のロナルド・レーガン氏がテフロン大統領(Teflon president)と揶揄されたいたのを存じでしょうか。テフロンでコーティングされた鍋が焦げ付かないように、彼がどのような非難にも傷つかず、回避してしまうことから作られた言葉で、その後もスキャンダルに強い大統領に対して使われているようです。

そもそもテフロンは米国のデュポン社で開発された合成樹脂の商品名で、化学物質の名称が1980年代の米国社会で違和感なく受け入れられていたのは興味深いことです。おそらく英語圏では、化学に関連する言葉が比較的原義に近いまま使われているためだと思われます。

日本語でも、ペットボトルのペットは、原料のプラスチックであるポリエチレンテレフタレート(の英語の略称・PET)に由来すると知られています。カタカ

ナ表記のため化合物名であることが分かりにくくなっています。なお、代表的な合成繊維であるポリエステルはPETを繊維状に加工したのですが、PET繊維とは呼ばれません。

このように、社会生活において化学物質の正式名称に触れる機会は極めて少なく、また製品の名称も原義からやや離れた使われ方をしている現状では、プラスチックと呼ばれる物質には種類があつて、一つ一つが特有の性質をもっていることを理解するのは難しい状況です。この点は、私たち化学者、そして化学業界が取り組むべき課題の一つと考えています。

グリーンケミストリーと生分解性プラスチック

グリーンケミストリー(Green Chemistry)とは、「有害物質の使用や生成を

(数万年待てば、二酸化炭素を取り込んだ植物が石油になるかもしれない)ですが、現実的ではありません。

ここで注目を集めているのが、生分解プラスチックです。その特徴は、石油由来の合成高分子でありながら、微生物によって分解され、自然界の循環系に取り込まれる点にあります。したがって、自然界に流出しても非分解のプラスチックよりも環境負荷が低減されることが期待されています。グリーンケミストリーの理念に近い化学物質と言えるでしょう。

ただし、良いことばかりではありません。生分解性プラスチックの多くはポリエステルと呼ばれる高分子化合物なのですが、PETのような耐熱性や耐久性の源となるユニットを含まないため、用途が限られているのが現状です。多くの化学者や化学メーカーがこの問題解決に取り組んでいます。

環境負荷の少ない、新しい高分子素材の開発に向けて

私の研究対象は、ざばり「プラスチック」です。私とプラスチックの出会い、とは言いいつも生まれた時には身の回りにプラスチック製品があつたので、ファーストコンタクトは不明です。ただ、はつきりと覚えているのは、小学校3年生の時、教室のストープの上で加湿用に使

角定規を入れてグニャグニャに変形させるのが楽しかったことです(その後、先生に叱られました)。振り返ってみれば、これこそプラスチックの可塑性の体験だったわけですが、当時の私には知る由もありません。

それから十数年が過ぎ、大学、大学院で本格的にプラスチックについて学び、研究することになりました。そして、大学院博士課程での研究テーマが、新しいフッ素系ポリマーの開発でした。前述のテフロンは、フッ素系ポリマーの代表例で最もよく使われているものです。

私の目標の一つは、フッ素の使用量を削減しながら、テフロン以上の撥水・撥油性(水や油を寄せ付けない)、防汚性(汚れが付かない)を示す新規素材を作り出すことでした。結果として、テフロンほどの高い耐久性はありませんが、少量のフッ素で優れた撥水・撥油性、防汚性を示すポリマーの合成に成功しました。この研究で培った経験をもとに、その後、生分解性プラスチックに5%程度のフッ素をうまく導入し、95%の生分解性を保ちつつ、優れた撥水・撥油性、防汚性を示す素材の開発に成功しました。さらに、クリーンな光反応を利用してポリマーの分子運動性を制御することを考え、生分解性と耐熱性という相反する性質を同時に満たす、新しい素材の開発に取り組んでいます。



ESSAY

15学部の教員たちが、研究の世界をエッセー形式でご紹介します。



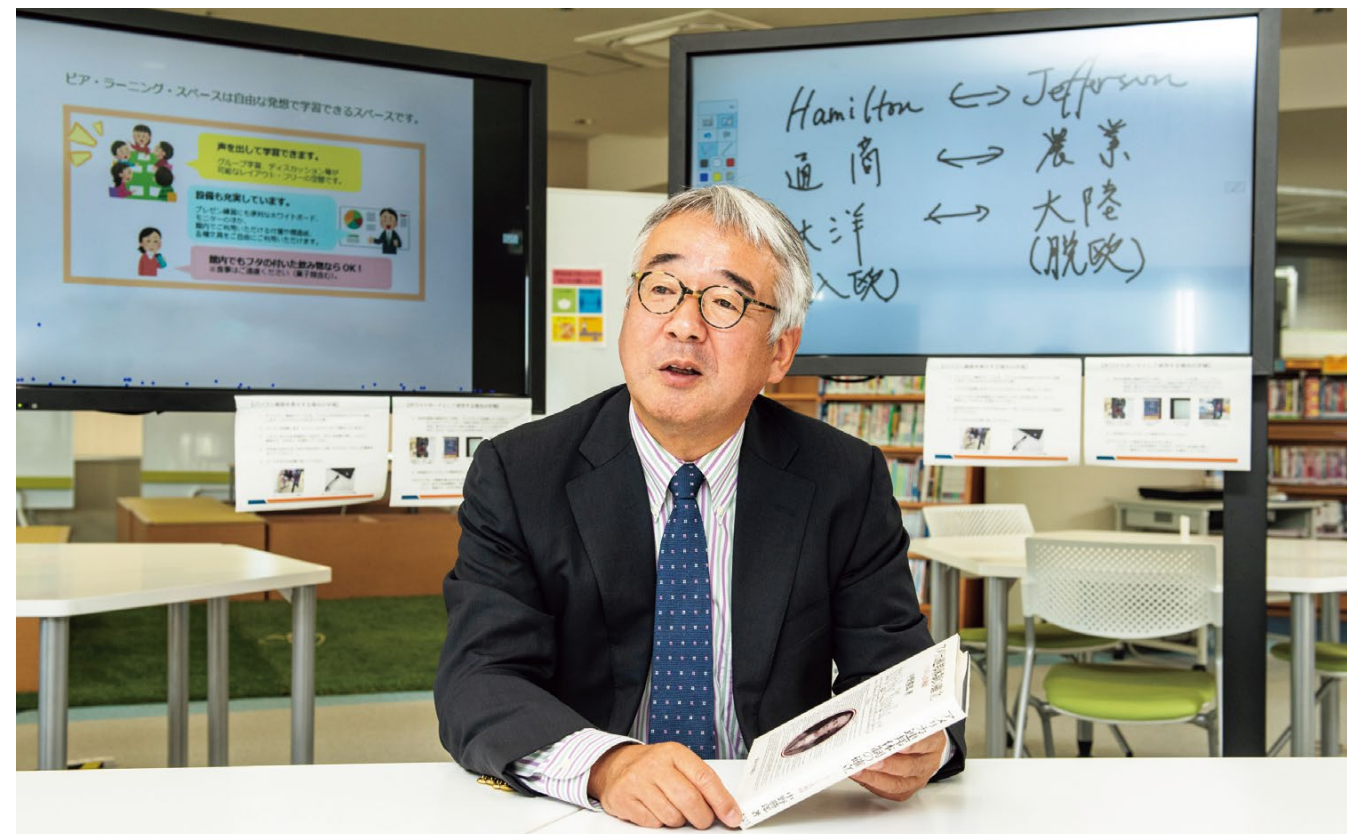
Sugiyama Kenji

1996年、東京工業大学大学院理工学研究科有機・高分子物質専攻・博士課程修了、博士(工学)。同専攻にて助手、助教。フランスのボルドー大学博士研究員。2010年、本学に着任、2012年より現職。専門は、高分子合成化学。共著書に『高分子の合成(上)』(講談社)、『分子から材料までどん

歴史に刻まれた人間模様から 米国を対象化して考察

日本での明治維新との類似性に興味を覚え、建国期を中心に米国の政治史を究める中野勝郎教授。
「過去との対話」を通じて歴史をひもとく、人間を理解する手掛かりを見いだしています。

法学部政治学科 教授 中野 勝郎



建国期の米国と 幕末の日本との歴史的類似

米国の政治史、特に英国の統治から独立した建国期に焦点をあてて、研究しています。建国に尽力した政治家で、私が着目したのはアレグザンダー・ハミルトン。合衆国憲法の批准を唱え、初代財務長官を務めながらも、独立宣言起草して脚光を浴びたトーマス・ジェファークソンの影に隠れてしまった人物です。政治家としての立ち位置や建国時の働きぶりが、明治維新での大久保利通と相通じるように思えて、探求心がくすぐられたのです。

米国は、多くの移民によって成立した多民族国家です。国民の多くが自分のルーツを米国に持たず、アイデンティティーを示すために「米国人とは何か」と自問し続けるという一種の強迫観念を抱えています。国家としての主義・思想への同調圧力も強く「米国の民主主義（デモクラシー）こそ正義」という思いから、共産主義や社会主義の思想を持つ人に対して反発し、他の国にも米国民民主主義の影響力を働かせようとしてきました。

そうした米国の振る舞いに対して、多くの先進国では、自国の文化を守ろうと反米感情が生じるのですが、日本では違いました。敗戦の遺恨を引きず

ることもなく、米国発祥の文化も積極的に取り入れてしまう。世界的に見れば、極めて異例の存在です。

では日本人は米国のことを正しく理解しているのだろうかと考えると、疑問が生じます。日本国内には、沖縄の米軍基地を筆頭に、深刻な対米問題を抱えている事例があります。米国研究者にとっても、予想外の人物が米国大統領として選出されたことから、これまでデモクラシーの模範国として積み上げてきた認識を見直す必要に迫られています。

歴史を見る眼は、自然科学のように普遍的ではないので、常に自分の視点を疑いながら、客観性を意識して物事を見るように努めるしかありません。現実から目を背けることなく、いま起こっていることへの意味を考え続けていきたいと思っています。

異質なものとの交流が 新しい知見につながる刺激に

政治学の研究には、大きく分けて二つのカテゴリーがあります。一つは、哲学や歴史、思想的な観点から政治を考察しようという「ポリティクス」。もう一つは、データや数字に基づいて科学的に分析しようとする「ポリティカル・サイエンス」です。法政には、私の研究スタイルであるポリティクス



能の稽古は4年間続けている。
写真は、発表会で狸々（しょうじょう）の舞を披露した際の1枚



歴史から得た考察を現実に生かすため、対米問題に直面している人からの話を聴くフィールドワークも大切にしている。ゼミ合宿では沖縄を訪問



架け橋プロジェクトではニューヨーク州ウェストポイントを訪問。先に本学を訪れた米国陸軍士官学校の学生との再会も果たした

を尊重してくださる先生方が多く、その環境に感謝しています。
ただ、新しい知見を生むには、居心地のいい環境に甘んじるのではなく、異質なものに触れて刺激を受けることも必要です。東京という地の利を生かして、学外の相手とも意識的に交流するようにしています。

そうした学外交流が、思わぬ出会いを生むこともあります。国際交流基金が主催した日米学生交流プロジェクト「KAKEHASHI Project-The Bridge for Tomorrow」（通称、架け橋プロジェクト）が始動し、2014年11月には法政大学を含む、計6大学150人の学生らが米国を訪れました。引率として付き添った私は、当時東京藝術大学から参加していた能楽師の大学院生と親しくなり、その縁で、趣味として能楽を学ぶようになりました。この時出会った大学院生が現在の私の師匠です。法政大学には野上記念法政大学能楽研究所があり、能楽賞なども実施しています。いつか法政大学の能楽堂で能を舞う師匠の姿が見たい——。そんなことを夢見ています。

過去からヒントを得た実践知が 未来の備えになる

政治学は、実用的な生活スキルにはなりません、蓄積されてきた知見を

基に「人間が持つ、さまざまな属性を理解すること」に役立ちます。
人を束ね、社会を動かすような力を得るにはどうしたらよいのか。人間はどのようなときに動き、どのようなことが足かせとなつて、動きを止めるのか。史実を丁寧に読み解くと、人間が行動する動機を理解する手掛かりが得られます。利益や権力欲は人を動かす原動力になるけれど持続性に欠けます。社会の営みを継続させるには、達成することに意味があると思える「共通理念」が必要なのだと分かります。

人間とは何かを問う考察は、現実の人間関係においても生かされ、実践的な知恵になります。過去の探求から得た知見は、まだ見ぬ未来への備えにもなるのです。
史実から得た手掛かりをヒントに、考察と実践を地道に繰り返す。そうした試行錯誤の末に手にした、次の未来への備えとなる知見も「実践知」なのだと思っています。

Nakano Katsuro

1958年鹿児島県生まれ。立教大学法学部卒業、東京大学大学院法学政治学研究科政治学博士後期課程満期退学。博士(法学)。北海道大学法学部助教授、同教授などを経て、2000年法学部政治学科教授に着任。現在に至る。2020年から法学部学部長を務める。

多摩キャンパスで活動する「Jazz Study Club（通称ジャズ研）」部で所蔵している楽器や自分が所有している楽器を演奏して、自由にジャムセッションを楽しんでいます。

ジャズ演奏の魅力は、楽譜には書かれていない部分を即興（アドリブ）でアレンジして奏すること。音楽的センスと確かな演奏技術が求められます。部員の中には、中学や高校時代に吹奏楽部などに所属して楽器演奏に親しみ、大学入学を機に新たな形で音楽を楽しみたいと、ジャズ研に参加するケースも多く、話を聞かせてくれた3人も同様です。丸山さんはサックス担当からボーカルへ、加藤さんはトランペットとボーカル、クラリネットを吹いていた清水さんはエレキベースへと、新たな音楽パートにも挑戦しています。

「セッションはもちろんですが、日常のたわいもないおしゃべりを楽しむような、穏やかな時間も大切にしています」と語るのは清水さん。「年に2回開催する合宿では、数日間生活を共にするため、一気に距離が縮まります。部員同士に気兼ねのいらない信頼関係が生まれると、即席のバンドを組んでも演奏の息が合うように感じます」と笑顔を見せます。

日頃の練習の成果を発揮するのは、

Jazz Study Club

日常で培った信頼関係で
息を合わせて
本格的な
ジャズ演奏を楽しむ

クラブ・サークル

※今回はオンラインで取材しています



上段左から、丸山菜々子さん（社会学部社会学科3年、代表）、清水萌乃佳さん（現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年）、下段、加藤芽依さん（現代福祉学部臨床心理学科3年）



ジャズの定番曲が収録された「ジャズ・スタンダード・バイブル」。セッションの多くは、この楽譜集から曲を選んで演奏を楽しんでいる



新入生の歓迎の意を込めて開催するバーベキュー。和気あいあいとした雰囲気の中、河原で食事を楽しむ（写真は2019年）



春学期の定例ライブは、毎年6月頃に部室で開催する。新入生にとって初ライブとなるだけに、独特の緊張感が漂う中で、セッションを披露する（写真は2019年）

年2回部内で開催する定例ライブ。多摩キャンパスの夏祭りや音楽サークルが集まるイベント（希望者のみの自由参加）や大学祭ではステージに立ち、観客を前にしてセッションを披露しています。

「特に大学祭は、部員以外の前で演奏を披露できる数少ない機会。3年生にとってはラストステージになるので、気合を入れて練習に励みます」と語るのは代表の丸山さん。

「先輩たちが時間をかけて練習する姿などに刺激を受けて、自分も頑張ろうと思うことが多いです。その結果、初心者としてサークルに参加した新入生でも、練習を重ねれば、演奏を楽しんでできるようになります」と胸を張ります。

新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年の活動は思うようにできていない状況です。加藤さんは「卒業生もふらっと立ち寄ってくれるような、和気あいあいとした雰囲気」がジャズ研の魅力。先輩から誘われて参加した学外でのバンド演奏は、思い出深い経験です。そんな仲間たちと会えずにいるのは正直寂しいですが、次にセッションができるようになった時には上達した姿を見たいので、いまは個人練習に励んでいます」と意欲的に力を蓄えます。

分野を特定せず、さまざまな問題について考察し、議論を深めながら物事の捉え方や社会を見る「方法」の習得を目指しています」と、ゼミの活動概要を紹介するのは陳黄さん。留学生として入学後、努力して語学の壁を克服。議論に積極的に参加し、文献の読解力も深めています。「主張の根拠を求めながら、客観性を持って語り合うことで、立場が違ってても理解し合えることを学びました」と、自身の成長を喜びます。

ゼミ活動の中心は、文献の講読と意見交換です。最初に文献の要約を紹介する発表者は当日指名なので、授業では常に全員が発表資料を作成して備えます。少人数のグループに分かれて討論するので、必ず発言の機会があります。自分の考えを伝えられていないと感じることもあるので、先輩たちを見習いながら発言力を鍛えていきたい」と語る田口さん。向学心を持って議論に取り組むことで力を蓄え、自身の社会学的思考に磨きをかけています。

堀川ゼミでは、「裏付け」に基づいて論じること、自分を諦めずに自己ベストの更新を目指すことを重んじています。「本当に探求したいことは何か。とことん自問し、腹の底からテーマを選んでほしい」と語る堀川教授。その思いに込めるように、山室さ

社会学部社会学科 堀川三郎教授ゼミ

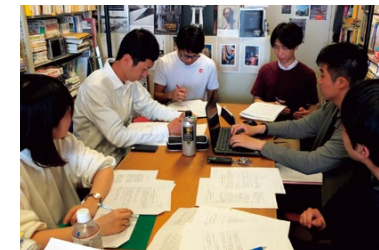


“Say it with data.”
——社会問題の
現場を歩き、足で考える

ゼミナール・研究室

※今回はオンラインで取材しています

上段左から、堀川三郎教授、山室友希さん（社会学科4年）、陳黄作明さん（社会学科4年）、下段左から、森田遼太さん（社会学科4年）、田口智尋さん（社会学科3年）、藤原有希さん（メディア社会学科3年）



ゼミは堀川教授の研究室にて、本に囲まれながらじっくりと議論を重ねている（現在はウェブ会議にて開催）



毎年恒例のBBQパーティー（写真は2019年）。時間をかけて作った料理を囲み、親睦を深め合う



卒論公開口頭試問の後はフレンチ・レストランでの本格的なディナー。ゼミ修了証を手に笑顔もほころぶ（写真は2019年）

んが選んだ卒論のテーマは「自分らしさ」。『自分らしさ』とはどういうことか、どのように形成されるのか、それを求めてしまふのはなぜか。そうした問いの答えを追いかけています。社会学に加えて、哲学や心理学も視野に含め、学問の境界をまたいで取り組んでいます。

夏のゼミ合宿も、2020年度はウェブ会議ツールを利用してオンラインで開催。事前に文献の講読や要約のまとめを準備しておき、議論に臨むという流れは、例年の合宿と同じです。画面越しですが、3日間じっくり議論することができました」と振り返るのは藤原さん。自身の研究では、住宅街の景観の画一化に関する考察を始めています。「現場を歩いて、足で考えるのが堀川ゼミの信条なので、これからは現地調査にも出掛け、実例を集めながら考えを深めていきたい」と先を見据えます。

卒業後は公務員として行政に関わることを決めた森田さん。堀川ゼミでの活動を通じて、自分の中に芽生えた問いと真剣に向き合い、答えを求めていくにはどうしたらいいか、問題解決の姿勢が身に付きました。先生の親身な指導のおかげです。これからは、さらに視野を広げ、社会全体の問いを探索していきたい」と力強く語ります。

THE SCENE

大学有数の歴史と実力を誇る、法政大学体育会。
そんな伝統ある40体育会が日々活動しているワンシーンを、迫力あるカラーグラビアで紹介します。



ソフトテニス部

撮影場所：多摩キャンパステニスコート
撮 影：田中伸弥

ソフトテニス部は1934年に創立され、多摩キャンパスのテニスコートにて練習に励んでいます。現在、関東学生ソフトテニス連盟において、男子は1部、女子は4部に所属しています。文部科学大臣杯争奪東京六大学リーグ戦(春季・秋季)、関東学生ソフトテニスリーグ戦春季・秋季(春季はダブルス、シングルス選手権有り)、東日本インカレ^{※1}、インカレ^{※2}など、1年を通して多くの大会に出場しています。2020年は新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの大会が中止されました。練習もままならない厳しい状況ですが、次の大会に向けて前向きに活動しています。今後の活躍にご期待ください。

Message

「自由な学風」の下で、自ら考え、
行動する学生の声を届けます。

どこからでも見られる時代に 現場の空気感を

スポーツ法政新聞会編集長
社会学部メディア社会学科3年

Isoda Kentaro

磯田 健太郎 さん



このメンバーで『スポーツ法政』新聞を制作

皆さんは大学スポーツを見たことがありますか。かつては国内のスポーツイベントでも上位に入るような盛り上がりを見せていた大学スポーツですが、娯楽が多様化した近年ではなかなか光が当たらないカテゴリーであるように感じています。私も大学に入学するまでは、全く現状を知らなかったというのが正直なところです。

スポーツ法政新聞会へ入った理由は、文章をまとめたり、戦術や戦略を考えたりすることが好きだったからです。また、スポーツに携わる仕事がしたいと考えていたこともあり、将来のために経験を積もうと思ったことも理由の一つです。

実際に活動を始めると、毎回の取材が発見の連続でした。試合後の取材は、自分が感じたことを、選手と

答え合わせをするような独特の感覚があります。大舞台で活躍してきた選手の言葉からは、私の経験からは到底得ることができない新しいことを学ぶことができました。平日は大学の授業、週末は取材や新聞の編集に追われ、担当競技となったスポーツは一から学びました。いつしか選手たちのストーリーを伝えられることに、誇りを感じるようになりました。

このコロナ禍で何かできることはないかと知恵を出し合っただけ企画したのが『#コロナに負けるな法大生！』です。在学生と体育会所属の学生、そして卒業生との架け橋になりたいと考え、多くの卒業生にご協力をお願いし、在学生への応援メッ

セージをいただきました。

SNSではたくさんの反響がありました。大学スポーツの普及、そして体育会と一般の学生の距離を少しでも縮めることができたのなら幸いです。

感染予防のため、スポーツの試合を見に行くことは簡単ではなくなりましたが、インターネット配信などによりどこでもスポーツ観戦を楽しむことができる時代です。だからこそ私たちに求められているのは、現場の熱量や、空気感を伝えることだと切に感じています。

多くの人々の記憶に残るような大学スポーツの今を、余すことなく伝えていきたいと思っています。



後援会だより

「子どもの母校は我が母校」
「後援会だより」は後援会が保護者の皆さまと作るページです。

キャリアセンターから会員の皆さまへ

法政大学キャリアセンター事務部長
藤野 吉成

平素より後援会の皆さまにはキャリアセンターへ多大なるご支援を賜り、ありがとうございます。また、このたびは私たちの取り組みを紹介するために誌面を拝借する機会をいただき、感謝に堪えません。

本学では、本年4月の緊急事態宣言の発出と同時に、就職活動支援の講座などを動画配信に切り替えました。また、以前より重要視している個別相談は、電話や電子メール、ウェブ形式でも対応できるようにし、希望者には感染症対策に十分配慮した上で対面相談も継続するなど、支援のバリエーションを増やして対応しています。

ナ禍で企業の採用活動が遅れたことや一部の業界、企業による採用計画縮小の影響が考えられます。また多くの公務員試験が延期されるなどの影響も生じており、民間企業へ志望を変更するか判断に迷う学生も見られます。

現在、進路状況確認のため、4年生全員に対して電話による全量調査を行っています。進路決定報告のない学生についての現状を把握した上で、個別に必要なサービスをきめ細かく提供していきます。10月下旬からは、未内定者一人一人に専属の専任職員、キャリアアドバイザーを配置し、個別サポートをさらに強化します。

会をウェブ上でも提供していきます。

保護者の皆さまにおかれましても、現在、そして今後の就職状況がどうなるか、ご心配のことと思います。中止となった後援会支部総会での父母懇談会の代替として、9月に2日間、父母向け個別相談を電話・オンラインで実施し、熱心なご質問に対応させていただきます。首都圏父母懇談会の代替としては、11・12月に同様の取り組みを行いますので、ぜひご参加ください。

本学では、就職を希望する学生が内定先を得て卒業できるよう、キャリアセンターを中心に全力で取り組んでいます。2020年3月卒業生の実就職率は、MARCHトップとなりました。これから数年は就職環境が厳しくなることが予想されますが、本学の支援方針は変わりません。

キャリアセンター ウェブサイト
<https://www.hosei.ac.jp/careercenter/hogosha/>



キャリア支援に関する情報や、保護者の皆さまから多くいただく質問と回答などを掲載しています。



2020年度支部体制スタート



宮城県支部長
木村 憲史（眞生／国際文化学部）

このたび、2020年8月31日付け支部総会にて2020年度の宮城県支部長を拝命いたしました木村です。コロナ禍が会員の皆さまに影響していないか、心配しております。

いまだ新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えず社会活動が制限される中、大学においてもオンライン授業が開始され、子どもたちに対する教育・研究活動が停滞しないよう教職員の皆さまが懸命に取り組まれていることと存じます。

しかしながら、子どもたちに不自由な教育・研究環境を強いているのもまた事実であり、本来の大学生活を送ることができずにいる子どもたちを思うと、心が痛むばかりです。



過去イベント風景

このような状況においても「子どもの母校は我が母校」のスローガンの下、新型コロナウイルス感染症の早期の収束を願いながら、後援会支部運営に携わっていきますので、1年間よろしくお願いたします。

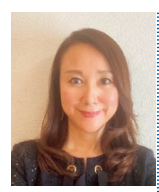


このたび、2020年度の沖縄県支部長を拝命いたしました知名と申します。設立24年目の沖縄県支部では、年6回の役員会、新人生父母の集い、支部総会・父母懇談会の他、10月のキャンパスツアー&東京六大学野球観戦、そして12月の那覇マラソン応援など、活動の充実を図っています。

中でも、大学職員有志、支部役員（現役・OB）が出演する那覇マラソンの応援は、特色のある楽しい行事です。オレンジカラーのTシャツを身にまとい、のぼり旗と横断幕、名物の「差し入れ」を手に、疾走するジョガーを沿道から応援します。声援を送っていると、「法政卒業生です!」と多くの方々が駆け寄ってきてくださり、応援する側も元氣と感動をもらえます。残念ながら今年からは中止となりました。

コロナ禍で、オンラインでの授業や就活など、慣れない環境下での大学生生活を強いられる子どもたちを、遠く沖縄から見守る保護者の不安や悩みは皆、共通です。大学、後援会、そして校友会と連携し、会員の皆さまが求めている情報を迅速に提供、共有し、支部運営に努めてまいります。11月からはウィズコロナ時代の新しい生活様式を踏まえた支部活動を再開すべく準備を進めていますので、どうぞお気軽に支部活動にご参加ください。皆さまにお会いしてお話しできることを役員一同楽しみにしています。

ウィズコロナ時代とともに キックオフ!!



沖縄県支部長
知名 理花（大地／理工学部）



りましたが、来年また応援できるのを楽しみにしています。

※（ ）内は子どもの名前／学部

HSC (HOSEI SPORTS COMMUNITY)

学生も父母も卒業生も一丸となって法政スポーツ応援隊
～今年はネットやテレビから熱い声援を送りましょう！～

各競技の大会実施状況や一斉応援企画(中止・変更情報も含む)のお知らせなど、
法政スポーツ情報を掲載しています

HSCウェブサイト <https://hosei-sports.jp/hsc/>



会員のための大学ガイドブック 2020年度デジタル版完成

—後援会ウェブサイトにて公開中—

法政大学と後援会に関する情報を保護者向けにまとめたガイドブック(全81ページ)です。電子ブック版またはPDF版でご覧いただけます。



後援会紹介動画 のご案内

—YouTubeにて公開中—

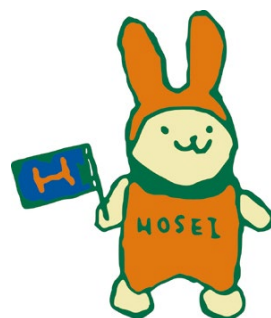
後援会とその活動を分かりやすくまとめた動画(約10分)を公開しています。各種行事における実際の活動の様子もご覧いただけます。



後援会の紹介動画は
こちらから

法政大学後援会事務局

〒102-0073 東京都千代田区九段北3-2-3 法政大学九段校舎4F
TEL: 03-3264-9350 FAX: 03-3264-9367
E-mail: koenkai@hosei.ac.jp
<https://www.hosei-koenkai.org/>



常任参与と後援会運営委員との 懇談会報告



後援会副会長
吉川 信宏 (祐樹／経営学部)

8月1日(土) 10時より、常任参与(大学関係部長)と後援会運営委員との懇談会が開催されました。

例年は対面による開催でしたが、新型コロナウイルス禍の状況を鑑み、今回はZoomによるオンライン開催となりました。

当日は参加者全員の自己紹介から始まり、後援会の清水伸行会長より、後援会の活動状況および今年度中止となった父母懇談会の代替企画について説明をいたしました。松井哲也法入統括本部長からは、大学の現状についてご説明いただきました。

2021年度後援会助成金予算案については、大学側からの要望につきまとして常任参与の方々から具体的に説明いただき、意見交換を行いました。

引き続き、平山喜雄教育支援統括本部長から、新型コロナウイルス禍における授業運営について現状をお聞きしました。また、喜嶋康太学生支援統括本部長からは、感染拡大に伴う家計急変、ならびにオンライン授業受講環境に関する本学の学生支援の取り組み、

今年度就職活動の状況についてご報告いただきました。

後援会では、これらを踏まえて、学生の学業継続のためのさまざまな支援や、学生が安心して通学できる環境整備、学生諸活動支援などについて今後審議を行い、より良い支援につなげていきたいと考えております。

今回は、初めてのオンラインによる懇談会でしたが、ご参加いただきました皆さまのご協力により円滑に進行することができました。お忙しい中、皆さまと貴重な時間を共有できましたことを心より感謝申し上げます。



2020年度 今後の後援会行事について

■ 父母懇談会代替企画

今年度の父母懇談会開催中止に伴い、会員(保証人)向け大学情報動画公開、個別相談などの代替企画を実施しております。詳細は、後援会ウェブサイトをご覧ください。

後援会ウェブサイト 会員限定特設ページ

<https://www.hosei-koenkai.org/members>



会員限定特設ページ
(要ログイン)

■ 後援会臨時総会 11月14日(土)

電子表決による決議、非招集開催

※決議結果は後援会ウェブサイトをご覧ください。

■ 支部長会議 11月14日(土)

市ヶ谷会場とオンラインで参加者をつないで開催

校友会だより

一般社団法人法政大学校友会(以下、校友会)は、「法政ネットワーク」強化により校友憲章に謳っている「価値の創生・共創」を基本理念に、大学、後援会と手を携えて三位一体で諸事業を推進してまいります。

「新型コロナウイルス緊急対策奨学基金」に3000万円を寄付

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で家計が急変する付属校生徒、大学生、大学院生が多数発生することが見込まれるため、法政大学によって5月1日に「新型コロナウイルス緊急対策奨学基金」が立ち上げられ、広く協力要請が行われました。

校友会はこの要請を受け、5月に全国のパートナー組織の代表者、理事、代表議員宛てに「厳しい環境に置かれた母校学生への支援の輪にご参加」の協力要請文をお送りし、広く協力をお願いをしたところ、概算で520万円の寄付金が寄せられました。また、7月開催の校友会の理事会・総会で承認をいただき、校友会として同奨学基金に3000万円の寄付をいたしました。

こうした校友会の取り組みに対し、2020年9月23日(水)、法政大学九段校舎10階会議室にて「感謝状贈呈式」が行われました。

この贈呈式は、コロナ禍において、三密を避けるために少人数で開催され、

大学からは田中優子総長と小澤雄司常務理事が、校友会からは佐々木郁夫会長が出席しました。田中総長の「多大なご寄付をいただき、心より御礼申し上げます」との謝辞とともに、大学から佐々木会長へ感謝状が贈呈されました。

今回の「新型コロナウイルス緊急対策奨学基金」とは、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う緊急支援のために新設された募金プロジェクト(募集目標金額2億円)で、学生への具体的支援策は次のとおりです。

- (1) 家計支持者の新型コロナウイルス感染症に伴う家計急変奨学金(給付型)
- (2) アルバイト学生のための新型コロナウイルス感染症に伴う緊急支援奨学金(給付型)

「新型コロナウイルス緊急対策奨学基金」の募集は2020年9月30日(水)で終了しておりますが、その他募金につきましては、法政大学募金ウェブサイトに掲載されています。

法政大学 募金ウェブサイト: <https://bokin.hosei.ac.jp/>



感謝状贈呈式にて。左から校友会の佐々木郁夫会長、田中優子総長

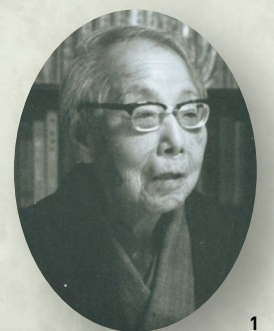
お問い合わせ: 一般社団法人 法政大学校友会事務局 Tel: 03-3264-1831 Eメール: info@hoseinet.or.jp ウェブサイト: <https://www.hoseinet.or.jp/>

校友会の大学への寄付実績	年度	金額
1. 法政大学SGU募金 (広報誌「HOSEI」広告)	2014	30,000,000円
	2015	2,390,000円
	2016	1,000,000円
	2017	1,000,000円
	2018	540,000円
	2019	1,000,000円
2. 新型コロナウイルス緊急対策奨学基金	2020	30,000,000円
3. 校友会奨学金	2016	10,000,000円
	2017	1,370,000円
	2018	1,125,000円
	2019	1,040,000円
4. 箱根駅伝応援募金	2018	2,850,000円
	2019	2,860,000円
	2020	2,760,000円
5. スポーツ関連小口募金	2015	194,879円
6. 法政ミュージアム開設準備募金	2019	10,000,000円
7. 市ヶ谷校舎外構植栽整備募金	2020	4,050,000円



HOSEI ミュージアム HOSEI UNIVERSITY MUSEUM

女性である前にまず人間であれ 作家・野上弥生子と女子教育の幕開け



1

2020年4月、代表作『迷路』や『秀吉と利休』で知られる作家の野上弥生子が法政大学潤光女子中・高等学校(現・国際高等学校)の名誉校長に就任してから70年を迎えました。

1885(明治18年、大分県北海部郡臼杵町(現・臼杵市)に生まれた弥生子は、上京して明治女学校に進学し、卒業後に、同郷で東京帝国大学(現・東京大学)の学生だった野上豊一郎と結婚しました。

豊一郎が師事する夏目漱石から指南を受け、23歳のとき雑誌『ホトトギス』に「縁」を発表し、作家としての活動を始めます。

1920(大正9)年に本学の予科長に就任した豊一郎は、優秀な教員を集めるなどして学校運営に尽力しましたが、人事方針を発端にした排斥運動(法政騒動)により

一時期大学を追われます。

弥生子の家庭小説「小鬼の歌」は、この「法政騒動」を当事者の妻の立場から描いた作品です。また、豊一郎と仲間たちの日々の様子を記録した「野上弥生子日記」は、文学史はもとより、本学にとっても貴重な史料となっています。

終戦直後、豊一郎は学長・総長として本学の復興に取り組みますが、1950(昭和25)年2月に急逝。存続の危機にあった潤光学園が、本学の付属校「法政大学潤光女子中・高等学校」として新しいスタートを切った数カ月後のことでした。同校の移管を受け入れた背景には、戦後日本のますます広範になる女性の社会進出を見越した、「女子教育」への関心があったといわれます。

弥生子は日記に、同校の名誉校

長に就任したいきさつとして、亡き豊一郎を慕っていた同僚や教え子たちに勧められた様子を書き残しています。

就任翌年の1951年6月、弥生子が生徒に初めて講話を行った際に述べた「女性である前にまず人間であれ」という言葉は、女性の解放と独立の思想に基づくもので、1953年に「法政大学女子中・高等学校」に改称されてからも、同校の女子教育の指標となりました。

1971年に文化勲章を受章した弥生子は、87歳で自身の母校・明治女学校を舞台にした長編『森』の連載を開始。同作の完結を目前に99歳で亡くなるまで、現役作家として精力的な創作活動を続け、「今日は昨日より、明日は今日より善く生き、より善く成長する」人生を全うしました。

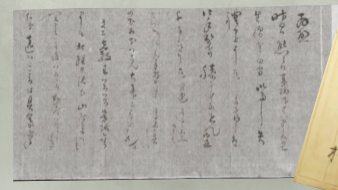
2020年10月より
HOSEI ミュージアムは
通常開館しています

現在開催中のテーマ展
「HOSEIスポーツの原点」

場所: 市ヶ谷キャンパス九段北校舎1階
詳細: HOSEIミュージアムウェブサイト
(<https://museum.hosei.ac.jp/>)



3



2

- 1 法政大学百年史編さんに際し、座談会に出席した野上弥生子(1978年5月)
- 2 野上豊一郎の逝去後に本学の総長に就任した大内兵衛が、付属校の名誉校長である野上弥生子に宛てた書簡。同校の近況ほか、レッドパージ下の大学の状況などが記されている(1951年12月)
- 3 本学への移管20周年を機に編さんされた『女子教育の建設を目指して—法政女子二〇年の歩み』。題字は、当時の中村哲総長による(法政大学女子中・高等学校編集・発行、1969年)



「このあたりが詰まった」横浜市ハマウイング訪問エコツアーを開催

10月1日(木)、環境センターは、地球環境問題の謎に迫る「このあたりの詰まったエコツアー」企画を実施。10人の学部・大学院生を引率し、横浜港の風を受けて発電する「ハマウイング(横浜市風力発電所)」を訪問しました(施設を訪問する際には、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための十分な対策を講じています)。

ハマウイングは、再生可能エネルギーである風力発電を活用した水素の製造、貯蔵、輸送、利用というサプライチェーンの構築および事業可能性の検討を目指した環境省「地域連携・低炭素水素技術実証事業」の現場です。横浜市環境創造局環境エネルギー課のご協力のもと、地球環境問題に取り組む現場の話を聞く機会に恵まれ、充実した時間となりました。



「第87回関東学生ヨット選手権大会女子レース」にてヨット部が好成績

9月26日(土)、27日(日)に神奈川県三浦郡葉山町森戸海岸沖にて「第87回関東学生ヨット選手権大会女子レース」が開催されました。

伊藤七瑠選手(文学部)、盛田冬華選手(デザイン工学部)、和田萌選手(文学部)が参加した470クラスのセーリングで1位を獲得。大学総合成績は、1位までわずか3.3点に迫る健闘で、2位に輝きました。



「天皇賜盃第89回日本学生陸上競技対校選手権大会」にて、陸上競技部の松本純弥選手が男子800m大会新記録で優勝

9月11日(金)～13日(日)に「天皇賜盃第89回日本学生陸上競技対校選手権大会」が開催されました。男子800mに出場した松本純弥選手(経済学部)が1分47秒02の大会新記録で連覇を達成。400mハードルでは黒川和樹選手(現代福祉学部)が2位、110mハードルでは横地大雅選手(スポーツ健康学部)と樋口陸人選手(スポーツ健康学部)が0.002秒の僅差を競う接戦を繰り広げ、それぞれ2位と3位で表彰台に上がりました。



松本純弥選手
(写真提供:陸上競技部)



プロ野球ドラフト会議で鈴木選手が千葉ロッテから1位指名、高田選手が東北楽天から2位指名、石川選手が横浜DeNAから育成1位指名

10月26日(月)に開催された2020年プロ野球ドラフト会議で、体育会野球部の鈴木昭汰選手(キャリアデザイン学部)が千葉ロッテマリーンズから1位指名、高田孝一選手(法学部)が東北楽天ゴールデンイーグルスから2位指名、石川達也選手(キャリアデザイン学部)が横浜DeNAベイスターズから育成1位指名を受けました。プロ野球の世界へと羽ばたいていく鈴木選手、高田選手、石川選手にこれからも温かい声援をお願いします。



(左から、石川選手、鈴木選手、高田選手)



卒業生による「HOSEIアナウンサートーク!」をオンライン開催

10月9日(金)、本学出身のフリーアナウンサー新田朝子さん(現代福祉学部卒)をゲストに迎え、オンライントークイベント「HOSEIアナウンサートーク!」を開催しました。

NHK旭川放送局、KFB福島放送などでの勤務を経て、現在はイスラエルのエルサレム在住アナウンサーとして活躍する新田さん。当日は、アナウンサーの仕事についての他、現在のリモートワークと発信活動、大学時代のエピソード、就職活動など、数々の経験談や後輩に向けての温かい応援メッセージが語られました。



派遣留学に参加した学生の体験談発表・座談会をオンライン開催

10月23日(金)、グローバル教育センターは2019年度に派遣留学へ参加した先輩学生の体験談発表と座談会をオンラインにて開催しました。

シェフィールド大学(イギリス)、リーズ大学(イギリス)、ヴェルサイユ大学(フランス)、カルロ・カッターネオ大学(イタリア)、マラヤ大学(マレーシア)、ステンデン応用科学大学(オランダ)、ヴェネツィア大学(イタリア)の5カ国7大学に留学した先輩学生が、派遣留学先で学んだり、体験したりしたこと、留学前の語学学習などについて発表。留学先ごとにグループ分けした個別相談も同時に開催しました。



小金井バーチャルキャンパスツアーを開催

10月17日(土)、学生センター主催の課外教養プログラムとして、学生スタッフがライブ配信で小金井キャンパス内の施設や理系学生の大学生活を紹介する、新入生向けのバーチャルキャンパスツアーを開催しました。

プログラム終了後には、学生スタッフと参加してくれた新入生とのオンライン交流会も開催。新入生の不安や質問に対して、先輩からのアドバイスが語られました。



本の魅力を語り合う「オンラインで“食べる”読書会」を開催

10月21日(水)、市ヶ谷図書館ライブラリーサポーターが中心となって「オンラインで“食べる”読書会」を開催しました。

この読書会は、参加者同士の交流を目的としたもので、それぞれが持参した本の魅力(美味しいところ)を互いに紹介し合い、質疑応答を経て、どの本が最も美味しく感じたかを投票で決めるものです。今回紹介し合う本のテーマは「飲食店が登場する本」。本の中の美味しいシーンから、そもそも“食べる”とは?というテーマにまで話が及ぶ食欲・読書の秋にぴったりの読書会となりました。



理工学部の尾川浩一教授がAFOMPのOutstanding Medical Physicistを受賞

理工学部の尾川浩一教授が、アジアオセアニア医学物理学会(the Asia-Oceania Federation of Organizations for Medical Physics, AFOMP)よりOutstanding Medical Physicistを受賞しました。

この賞はAFOMP創立20周年を記念して、アジアオセアニア地域で顕著な研究業績を上げた研究者、および医学物理教育で貢献した教育者に与えられる賞です。日本からは尾川教授も含めて4人が選ばれました。



陸前高田市×法政大学SDGsワークショップ活動が開始

本学は、2019年に「SDGs推進にかかる連携協定」を締結した陸前高田市と連携して、未来の陸前高田市を共に考えるワークショップの活動をオンラインで始めました。

「SDGs未来都市」に選定された陸前高田市とのワークショップを通じて、持続可能なまちづくりを考え、アクションにつなげることを目的としています。このワークショップは、2021年3月まで継続して活動していく予定です。



学生交流イベント「ふるさと魅力再発見ワークショップ」を開催

学生同士がお互いのふるさとを紹介し合う学生交流イベント「ふるさと魅力再発見ワークショップ」シリーズが開催されました。シリーズ第1回は「杵築とあなたのふるさと編」と題し、10月9日(金)、16日(金)、30日(金)の3回にわたって、ワークショップが開催されました。



「オンライン学生座談会」を開催

コロナ禍により、春学期授業はオンラインでのスタートとなりました。学生の皆さんは、春学期をどのように過ごしたのでしょうか。オンライン授業やコロナ禍での学生生活、秋学期への抱負などを語っていただきました。当日の様子については、大学ウェブサイトでご覧いただけます。



2020年度の公開情報をウェブサイトに掲載しています

本学では情報公開制度を実施しています。2020年度の公開情報は大学ウェブサイトでご覧いただけます。



情報公開



奨学金継続手続きに関するお知らせ(日本学生支援機構奨学生)

現在、日本学生支援機構奨学金を貸与および給付されている方は、2021年度に向けた奨学金継続手続きが必要です(2021年3月までに終了する方は除く)。

手続き方法の詳細は、12月中旬ごろ、お知らせ配信および本学のウェブサイトにてご案内する予定です。



秋学期も海外協定大学とオンライン学生交流会を開催



春学期に開催して好評だったことから、秋学期も引き続き海外協定大学との「オンライン学生交流会」を開催。日本語を勉強している海外の学生との交流は日本語、それ以外は英語を使用し、ウェブ会議ツールを用いて語り合いました。9月から10月にかけて開催したオンライン交流会の概要は以下の通りです。

- ①天津外国語大学(中国):9月23日(水)、10月28日(水)
「旅トーク(行ってみたい観光地、旅行エピソードなど)」
- ②北京科技大学(中国):10月8日(木)
「SNSの使い方」
- ③釜山外国語大学(韓国):10月15日(木)
「私の国のおすすめの観光地」
- ④對外経済貿易大学(中国):10月18日(日)
「私が考える『多様性』」
- ⑤山東大学(中国):10月24日(土)
「私の好きな日本料理・中国料理」

各交流会では、トークテーマに関するグループディスカッションを進行。それぞれのグループで話し合った内容をプレゼンテーションするなど、充実した交流が展開されました。オンライン交流会は、今後も継続して開催していく予定です。

BOOKS

60th Anniversary ジョイフル恵利

お客様満足度の高い振袖専門店
安心 信頼できる振袖専門店
レンタル振袖口コミ人気 **第1位**
日本マーケティングリサーチ機構調べ
調査概要:2019年4月期ブランド名のイメージ調査
※おみやげグループ

早めの
予約でお気に入りも
見つけよう!

レンタル 卒業袴フェア 開催!

予約会



ジョイフル恵利
イメージキャラクター
土屋 太鳳

新しい卒業式のカたち *Debut!*

卒業袴 前撮りプランなら

約20種類の
中から選べる♪

卒業式に着なくても
前撮りゃ安心!!

各日
数量限定

29,000円 (税抜き)

卒業式当日
衣装代※が

なんと! **0円**

※撮影は後日スタジオで実施します。

※下記の袴7点セット内容です。

卒業袴前撮り
プラン
セット内容

アルバム
+
1データ

撮影当日の
着付け・ヘア・
メイク付き

袴7点セット
着物・無地袴・半幅帯・
重ね衿・長襦袢・草履・巾着

卒業式当日の
着付け・ヘアアレンジ
優待ご案内

学校によってお支度会場が異なります。
詳しくはお問い合わせください。

※衣装は約20種類の中からお選びいただけます。また、数量限定となります。※本キャンペーンは予告無く終了する場合がございます。

各会場で
皆様も
お待ちしております♪

ジョイフル恵利はお客様及びスタッフの健康と安全を守る為、新型コロナウイルス感染の防止に
努めております。最新の感染予防対策に関しては、右記QRコードもしくは下記URLより
当社のWebサイトをご参照ください。(<<https://hakama-joyful-eli.com/>>)



in 錦糸町

とき **11月28日(土)・29日(日)**

28日/10:00~18:00 (最終受付 16:00)
29日/10:00~17:00 (最終受付 15:00)

ところ **すみだ産業会館 8F ホールD**
〒130-0022 東京都墨田区江東橋3-9-10 墨田区・丸井共同開発ビル

ギャラリ〜あさくさ

期間限定会場
2021年1月30日(土)まで

予約会へのご来場が
難しい場合は
左記予約会と同じ商品・
特典がございます

ところ **卒業袴ギャラリー あさくさ**
〒111-0042 東京都台東区寿3-19-5 JSビル2F
完全予約制ですのでお電話またはWEBでご予約ください



株式会社イイチ・ユー
マイコム学生サービスセンター

<提携業者>

ジョイフル恵利

ご来場のご予約はお電話・WEBから
03-5806-3591
10:30~17:00 日・祝日定休



WEB予約はこちら カタログご請求はこちら